

第65回近畿眼科 先進医療研究会

難治嚢胞様黄斑浮腫に対するSurgical approach -嚢胞様腔内フィブリンノーゲン塊摘出-



今井尚徳先生

神戸大学眼科 講師

難治DMEに対する外科手術

糖尿病黄斑浮腫（DME）の多くは、抗血管内皮増殖因子（VEGF）製剤が奏効する。一方で、各種治療に抵抗する症例が一定数存在することも報告されている。これらの結果は、従来の治療だけでは全ての症例においては黄斑浮腫を消退させ得ないこと、そして、DMEには未知の病態が存在する可能性があることを示唆している。

我々は難治DMEの嚢胞様腔内にフィブリンノーゲン塊を形成する症例が存在すること、そして、外科的にフィブリンノーゲン塊を摘出することが黄斑浮腫軽減および視力改善に有効である可能性を報告した。

糖尿病患者では、血漿中、硝子体腔、そして網膜内のフィブリンノーゲン濃度が上昇していることが報告されている。しかし、フィブリンノーゲンがDRおよびDMEの発症・進展にどのように関与しているのかについては不明である。

本講演では、難治DMEに対するフィブリンノーゲン塊摘出を併用した嚢胞様腔内壁切開術の実際と、今後の研究の展望についてお話しする。

日時：2020年1月9日（木）17時30分～18時45分

場所：近畿大学病院 病院棟3階『会議室』